

原水禁 長崎大会

8月7日（日）～9日（火）、今年も県平和センターと協力して、第71回原水爆禁止世界大会長崎大会に組合員とその家族合わせて29名が参加しました。

8月7日

長崎ブリックホールで開会総会が行われました。大会実行委員長の川野浩一氏は「核兵器禁止条約の交渉開始を、世界の多くの国が支持している。被爆国の良心に期待したい。」と、日本が議論の前進に貢献するように求めました。オバマ大統領の広島訪問については、現職の大統領として初の訪問を評価する一方で、「長崎にも来てもらいたかった」と述べました。



8月8日

分科会やフィールドワークなど、多彩な取り組みが行われました。

「脱原子力」「ヒバクシャ問題を考える」「見て・聞いて・学ぼうナガサキ」などの課題別に8つの分科会が開催されました。「佐世保基地めぐり」のような、一日がかりのフィールドワークもありました。



8月9日

三菱工場で働いていた際に犠牲となられた1400名の慰霊碑に参拝しました。花束と共に、参加者で折った折り鶴を捧げました。その後、長崎県立総合体育館での閉会総会に参加しました。大会副実行委員長の岡島真砂樹氏が「核も戦争もない世界へ、広範な連帯で運動を続けていこう」と閉会の挨拶をしました。

そして、爆心地公園まで平和行進をしました。公園に着き、原爆の投下された11時2分、原爆死没者に哀悼の意を表し、あわせて恒久平和と核のない世界の実現を祈り、1分間の黙とうを行いました。



<参加者の感想>

この度はじめて原水爆禁止大会に参加しました。こういう機会でもない限り参加することがない大会なので、県教組の活動のおかげで貴重な体験ができました。戦後約70年が過ぎ、徐々に戦争の記憶が薄れていく中、私たち戦争を経験していない世代が、経験者から話を聞いたり、その地を訪れたりすることは非常に大切であると感じました。

